報　文

# 小学校3年生から6年生の女子の衣生活行動

(1999年12月27日受理)

文化女子大学　鈴木　直恵
〃　岡田　宣子

## The Characteristics of Clothing Preferences of Elementary School Girls(Grades 3 to 6)

Naoe SUZUKI and Nobuko OKADA
*Bunka Women's University, Tokyo*

**Abstract**

The purpose of this study is to determine clothing preferences of 1,311 elementary school girls from grades 3 to 6 through questionnaires. As this level of grade is an important stage in the development of mind and body, better design of clothing to meet the needs of these children is required.

The results are as follows:

1)A 70% of the third grades and a 90% of the sixth grade girls select their clothing for school by themselves and with attention to matching colors.

2)To change easier their clothing to gymnastic uniform, about 40% of girls put on pullover shirts and upper grade girls put on bloomers before they leave for school.

3)It was evident that fifth and sixth grade girls were very conscious of their own physique and cared about skirt length. The reason why girls dislike wearing miniskirts and bloomers was exposure of their thighs.

4)Fifth and sixth grade girls usually wear dark color clothing during menstruation and they use clothing in which their bras don't show through. (Received December 27,1999)

**Key Words** : *bloomers, bras, clothes for school, elementary school girls, menstruation.*

(Journal of the Japan Research Association for Textile End-Uses, Vol. 41, pp.835−842, 2000)

**要　旨**

衣生活行動の自立へ向かう小学校3～6年生女子1,311名を対象に，心身の発達を考慮した，子供服の設計並びに子供の衣環境整備・被服教育のための基礎資料を得ることを目的として，質問紙調査法により衣生活行動の現状および問題点をとらえた．主な結果は次の通りである．

1. 通学服の組み合わせを，3年生では約70%，6年生では90%以上が自分で決定しており，主に色の調和を考えて組み合わせを行っている．
2. 体育のある日には更衣に配慮して，約40%がかぶり式上衣で登校する．また学年が進むにつれ家からブルマーをはいて行く人が増加する．
3. 5，6年生になると，自己の体つきに対する意識が強まり，大腿部が見えるミニスカートやブルマーを嫌う傾向がみられ，スカート丈を気にするようになる．
4. 5，6年生では，生理時に濃い色の服を着たり，ブラジャーが目立たないよう透けない服を着ようと配慮している．


0037-2072/2000/1000-0835 $ 01.00/0©2000 Jpn.Res.Assn.Text.End-Uses.

## 1．緒　言

子供用既製衣料は，ベビー用衣料とトドラー（3歳～6歳），スクール（小学生），ティーン（中学生）の子供服に分けられている．6歳までの乳幼児の衣生活に関する研究はいくつかみられる．すなわち，乳児や幼児の機能発達から衣服設計を検討したもの[1,2]，母親と子供の服飾嗜好の相違をみたもの[3]や子供の衣生活をみたもの[4]，子供の衣服の好みをとらえ子供服のデザインに言及したもの[5]などである．しかし，小学生の衣生活に関する研究は，小学生高学年児童を対象とした被服に対する意識についての報告[6]が見られるくらいであまり着手されていない．

小学生は，心身の発達の著しい時期で，他人がコーディネートした衣服を受動的に着せられていたのが，感性の発達に伴い好みがはっきりしてきて，自分でコーディネートして，自己・個性を確立する豊かな衣生活への準備期間である[7]．そこで，3～6年生の女子を対象として，質問紙調査法により，衣生活の現状や二次性徴と衣生活行動とのかかわりを観察する．学年が進むにつれて小学生の衣生活行動の自立がどのように進行するのか，学年別に平均値を求めその平均値間の差の有意性の検討などから自立の過程を把握する．これらから，心身の発達を考慮した子供服の設計並びに子供の衣環境整備や自立した生活者への被服教育のための基礎資料を得ようと試みた．

## 2．研究方法

アンケート調査は教室で担任教師立ち会いのもとで，1993年2月～3月に実施された．回収率は100％である．調査対象者は東京都内の公立小学校7校の3～6年生女子，合計1,311名で，その内訳は，3年生309名，4年生327名，5年生352名，6年生323名である．原則としてすべての質問項目に回答してもらった．質問内容は，(1)学年別にみた毎日の衣生活行動，(2)体に関する意識と衣生活行動との関わり，(3)二次性徴の発現と衣生活への配慮，(4)衣生活への関心，(5)よく着るアイテムと好みの5つの事項で，「学年別にみた毎日の衣生活行動」と「よく着るアイテムと好み」のうちの1)着用形態については調査実施日の通学服について回答を求めた．子供は年齢が進むに連れて自分で毎朝被服を選んで着るようになるが，それがどのような過程で進行していくのか詳細に検討されたものは見当たらない．そこで，「学年別にみた毎日の衣生活行動」では今朝，通学服を誰が選んだか，また，服とソックスをどのような方法で組み合わせたかなど4つの質問を行った．

公立の小学校では体育のための更衣室がほとんど整備されておらず，男女が同じ教室で着替えを行うことから，水泳のための着替えに，全身を覆うタオルを多くの女子生徒が使用しているという．そこで，「体に関する意識と衣生活行動との関わり」では，体育のある朝，通学服の選択時に体育のための着替えを考えて服を選ぶかどうか，また，体操着のブルマーやミニスカートに対してどのように感じているのかなど5つの質問を行った．

文部省の学校保健統計調査により[8]，小学生の身体発達の現状が報告され，早期化，早熟化が指摘されていたが，近年では初潮が早まるというより4年生以降において短期間に発来者が増加する傾向がみられることが指摘されている[9]．「二次性徴の発現と衣生活への配慮」では，生理の開始時期をたずねた．また小学生で生理が開始すると，そのことを知られたくない心理が働くのではないかと考え，生理の時，衣生活ではどのような配慮をしているのか質問した．小学生のブラジャー着用には，抵抗感や羞恥心を生じさせるとの指摘がある[10]．そこで，実際どのように対処しているのか質問を行った．「衣生活への関心」では体つきやファッションなど12の質問を取り上げ，衣生活に関心を示しはじめる小学校3～6年生の現状を詳細にとらえた．時代とともに，子供服の着用形態も変化している[11]．それまで大人のトレンドと異なる扱いがなされていたが，70年代後半から80年代にかけ，子供服にDCブランドが出現すると，子供服は大人の流行の動向に対応するようになってきた．現代では，大人服と子供服の境界があいまいになりつつある．そこで，「よく着るアイテムと好み」においては，実際にどのような

アイテムを着用しているのかなど6つの質問を行った．以上，5つの事項の各質問項目について，「はい」の回答に得点“1”を，その他の回答に得点“0”を与え，各学年相互間の平均値の差の有意性の検定を行い検討した．なお図には，全体を100とした回答率ですべて示している．

## 3．結果および考察

### 3－1 学年別にみた毎日の衣生活行動

1)朝通学服を誰が選ぶか

図1は，調査実施日に通学服を誰が選んだかの回答肢を横軸に，その回答率を縦軸に学年ごとに示したものである．自分で選択する者は3年生では69%，4年生では78%，5年生では82%，6年生では92%と増加する．母親が選択する者はその逆に減少傾向を示し，3年・4年生間で5%以下，5年・6年生間で0.1%以下の危険率で有意差がみられた．学年が進むにつれて主体的に自分で通学服を選び着装する自立過程が明らかになった．

2)通学服の組み合わせ方

図2は，自分で調査実施日に通学服を選択していると回答した人が，具体的にどのように服を組み合わせているのか該当するすべての回答肢に○をつけてもらい，得られた複数回答の結果を示したものである．いずれの学年でも「色の組み合わせ」が最も多く，3・4年生では20%，5年生では33%，6年生では38%と順次増加し，4年・5年生間では0.1%以下の危険率で有意差がみられた．「無地と柄物で組み合わせ」でも，3年生で5.2%だったものが，4年生，5年生で約12%，6年生で20.6%と増加し，3年・4年生間，5年・6年生間でいずれも0.5%以下の危険率で有意差がみられた．「自分に似合う色で組み合わせた」は6年生で急増し，5年・6年生間で0.5%以下の危険率で有意差がみられた．「同色系で組み合わせた」は，それまで約10%だったのが6年生で約20%と有意に増加していることから，6年生になると服の組み合わせ方をいろいろな方式で考慮することができるようである．一方何も考えないが4学年とも17%前後を占めていることから，服の組み合わせを工夫して衣生活行動を起こすタイプと，まったく配慮しないタイプに分割される．好きな色はいずれの学年も7%前後を占めていた．

3)ソックスと服の組み合わせ方

図3は，調査実施日にソックスをどのように考えて選んだかの質問で得られた回答の結果を示したものである．4学年とも，50%以上が着ていく服に合わせて選択しており，その比率は，学年が進むにつれ増加しているものの有意差は見られなかった．一方で，何も考えない人が30%前後おり，これは通学服のその比率の約2倍に相当することから，ソックスにまで細やかな心配りができる者は少なめである．

4)通学服の選択理由

図4は，調査実施日になぜその通学服を選ん

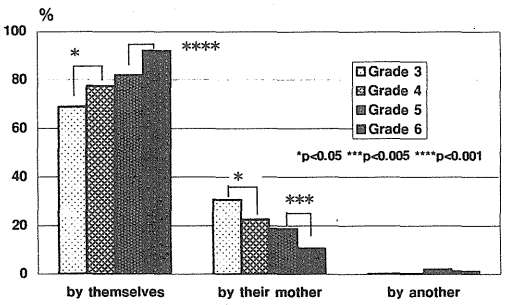


Fig. 1　Selection of clothes for school

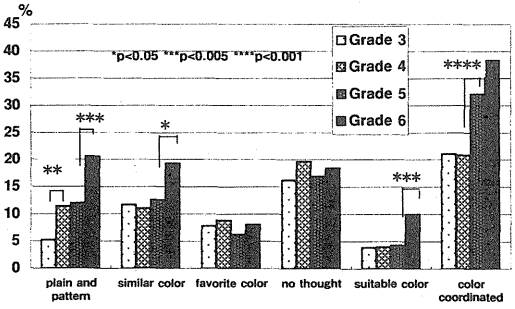


Fig. 2　Method of clothing selection for school

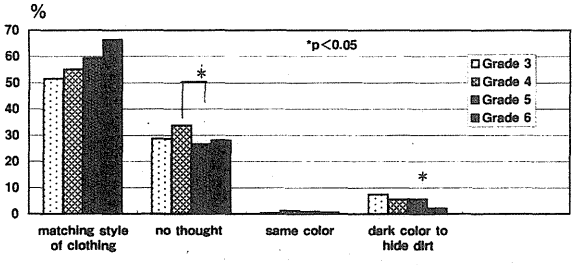


Fig. 3　Method of sock selection

だかの質問で得られた複数回答の結果を示したものである．好きな服および動きやすい服は20%前後を占めるが，その日の天気を考慮は3年生で8%なのが4年生では有意に増加し4・5・6年生で10%前後を占める．時間割りを考慮は3年生で14%であったのが4年生で有意に減少しその後，5・6年生で10%前後となる．なんとなく選択するは3年生の15%から順次増加し6年生で40%を占める．「朝通学服を誰が選ぶか」ですでに述べたように，自分一人で通学服を選択する人が3年生では69%，6年生では92%を占めていた．3年生の約30%はその日の行動予定にかかわる時間割を配慮するなどのアドバイスを母親から受けている．一方，自分一人で通学服を選択するものの，6年生でも曖昧さの中で未熟な選択行動をしていて，改めてなぜその服を選んだのか問われると明確な返答が出来ない．大人は，毎朝着ていく衣服をコーディネートする時，その日の行動予定や天候など多くの条件を考え合わせながら衣服を選択する．このように一日の行動予定をきちんと把握して被服を選ぶという選択行動は，衣生活行動の自立過程の中でもかなり高度であると考えられる．学校生活が一定環境で行われるので服の選択を厳密に考えなくてすむこともあるが，小学生はまだそれらの細やかな配慮が出来ずにいる．小学生以降，自立過程の中で失敗や経験を積みながら，徐々に大人の自立した衣生活行動へ移行していくことから，適切な家庭教育や学校教育をすることで，いかに子供の衣生活を向上させるかが今後の重要課題といえよう．

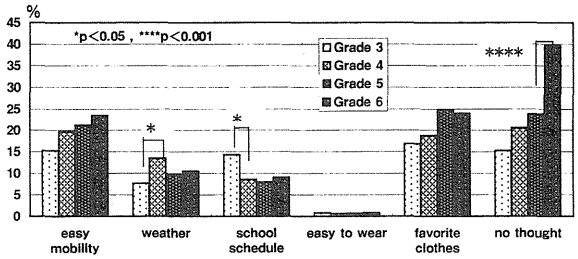


Fig. 4　Factors in selecting clothing

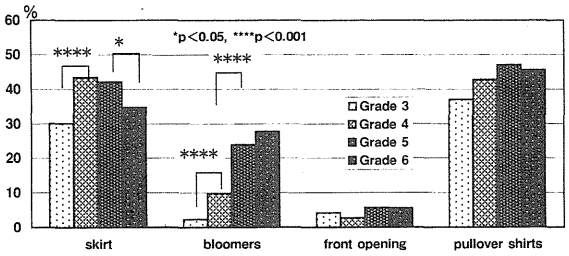


Fig. 5　Selection of clothing for easy changeability for gymnastics

**3−2 体に関する意識と衣生活行動との関わり**

1)体育のある日の着替えの考慮

体育のある朝，通学服を選ぶ際，着替える時のことを考えて選んでいるかについてみると，3年生では62.8%，4年生では71.1%，5年生では79.5%，6年生では74%が考慮すると答えており，3年・4年生間，4年・5年生間で5%以下の危険率で有意差がみられた．女子では，体育のある日には着替えの考慮を高い比率で行っていて関心が高いことが判明した．

2)体育のある日の通学服に対する工夫

図5は，体育の着替えのことを考えて，体育のある日の通学服を選ぶと回答した人について，具体的にどんな工夫をしているか質問し得られた複数回答の結果を示したものである．上半身については，脱いだり着たりするのに楽なボタンのない服(例：トレーナー)にすると回答した人は40%前後を占めていた．かぶり式であると，腕を服の中で抜いてその中で着替えをする方式が出来，他人に自分の上半身を曝すことなく着替えられる利点がある．下半身については，更衣時にパンツが見えないようにスカートを着用してくる人が3年生で30%，4年で43%と有意に増加する．しかし，6年生では，スカートをはいてくる人が有意に減少し35%となる．これは，教室で更衣しないですむように，あらかじめ体操服のブルマーをスカートの下に家から着用してくるという回答者の比率が高まることに起因している．すなわち，ブルマー着用は，学年が進むに連れその割合が大きく，6年生では，28%にも及んでいる．3年生では教室で男女仲良く着替えを行っていたのに，それ以降抵抗を感じはじめ，あらかじめ体操着を着用して登校

したり，男子や他の女子にも自分の身体を見られないよう細心の注意を払って更衣している現状が明らかになった．これらのことから，教育現場での更衣環境整備など学校側の対応が必要と思われる．

3)体操着のブルマーのすき嫌いとその理由

調査を実施したすべての学校で体操着のブルマーの着用を義務づけていた．そこで体操着のブルマーのすき嫌いについてみると，ブルマーが好きと回答する人は3年生では24.5%を占めるが，4年生では12.4%に，6年生では3.4%と激減する．一方，嫌いと回答した人は，3年生では21%なのに対し，6年生は約50%と増加し，3年・4年生間，5年・6年生間で0.1%以下の危険率で有意差がみられた．学年が進むにつれて体操服のブルマーを嫌う傾向が強まることが明らかになった．図6はブルマーが嫌いな理由について得られた複数回答の結果を比較したものである．大腿が見えることを理由に挙げる人は6年生で26.8%もおり，5年・6年生間で0.1%以下，3年・4年生間で5%以下の危険率で有意差がみられる．3年生では6%とあまり気にもとめなかった大腿部の露出が6年生で20%増加し，急に気になり出している．このことは二次性徴に伴う大腿部および腰部の発達も影響していると考えられる．すなわち，日本人の体格調査資料[12]について小学校3・4・5・6学年に相当する9・10・11・12歳の年齢ごとにその平均値をみると，大腿最大囲では9歳・10歳間で2.1cm，9歳・11歳間で4.5cm，9歳・12歳間で6.6cm増加し，いずれも0.1%以下の危険率で有意差がみられる．腰囲では9歳・10歳間で3.6cm，9歳・11歳間で7.6cm，9歳・12歳間で12.2cm増加し，いずれも0.1%以下の危険率で有意差がみられる．この大腿部および腰部の顕著な発達は腰部体表面積を増加させ，それまで腰部を覆っていたブルマーでは被覆面積が足らず，特に蹲踞姿勢時には下着がブルマーからはみ出すことが起こり，そのことを気にしている人は，3年・4年生では5%前後であるのに，5年生では11%，6年生では13%と増加し，4年・5年生間で5%以下の危険率で有意差がみられた．何となくの回答者についても

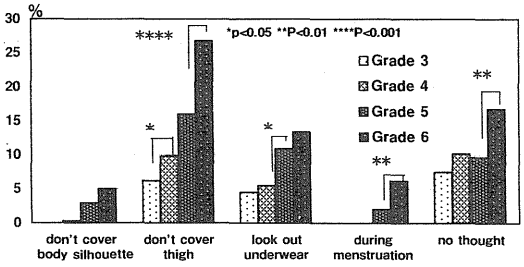


Fig. 6　Reasons for disliking bloomers

5年・6年生間で有意に増加し，自分の身体を見られることへの羞恥心の芽生えなどが影響しているのではないかと思われる．最近やっと，体操服のブルマーについて議論されるようになってきたが，小学校高学年女子の体育でのブルマー着用への抵抗感を考慮すると，心身の発達を考慮した教育の立場から，体育でブルマー着用を義務づけていることに疑問を感じざるをえない．早急な改善対応が望まれる．

4)スカート丈が気になる理由

スカート丈が気になるかについてみると，3年生では30.8%，4年生では37.7%，5年生では57.8%，6年生では67.3%が気になるとしていて，4年・5年生間で0.5%以下の危険率で，5年・6年生間で5%以下の危険率で有意差がみられた．スカート丈は，学年が進むにつれて徐々に気にしている様子がうかがえる．図7は，スカートの長さが気になると答えた人について，どのような点が気になるのか複数回答でみたものである．スカート丈が短いと下着や大腿部が見えることを気にしている人が，いずれの学年でも10%前後いた．高学年のみに質問している自分に似合ったスカートの長さがどうかについては，5年生では38.7%，6年生では約半数の47.7%が気にしていることが明らかになった．

5)嫌いなスカート丈

嫌いなスカート丈についてみると，ロングスカートを，3年生では42.5%，4年生では44%，5年生では47.6%，6年生では51.7%が嫌いと回答している．ミニスカートも同様に，3年生では36.4%，4年生では42.5%，5年生では34.4%，6年生では36.8%が嫌いとしている．ロングスカートとミニスカートは，非活動的であ

るため，学校生活では好まれない．一方ノーマルを嫌いとする者はわずか5％に過ぎない．

3－3 二次性徴の発現と衣生活への配慮

1)生理の開始と衣生活

「生理の有無」についてみると，5学年では14％，6学年では半数以上の52％が初潮を迎えている．なお，本調査と同年の調査報告によると[9]，5年生では21.2％，6年生では50.7％が初潮を迎えていた．図8は生理の時どのような点に注意して衣服を選んでいるかについて複数回答を求めその結果を示したものである．ブルマーを着用する人が5年生では8.6％だったものが，6年生では0.1％以下の危険率で有意に増加し31.8％を占める．高学年になるにつれブルマーが体操服としては好まれなくなるが，生理時には濃い色で安心という理由で活用されている．また濃い色の洋服をつとめて着用している人も，5年生では7.4％なのに，6年生では23.4％と有意な増加を示す．ポケットのある洋服を着る人も6年生では有意に19％と増加する．これは，生理用ナプキンを気づかれないようにポケットに入れるための衣生活行動と考えられる．高学年女子は生理中ブルマーや濃い色の洋服を着て万が一に備えている．幼児のしつけ服としてハンカチ・ちり紙などを入れるためのポケットが必要なのは言うまでもないが，高学年の子供服設計においてもポケットを付けることを原則とすべきと考える．

2)ブラジャー着用の有無と着用に際しての留意点

ブラジャーは，5年生では8％なのに，6年生では25％が着用している．図9は，ブラジャー着用時の服装への配慮について複数回答を求めその結果を示したものである．6年生では下着を着用している人が16％，透けない洋服を着るようにしている人が14％，体や胸の線が浮き出ないような服を着ている人が8％，重ね着する人が5％を占め，5年生から6年生でいずれも有意に増加している．暑くて快適性が損なわれても重ね着し，ブラジャー着用を他人に気付かれないよう恥ずかしさや不安を抱いて衣生活行動を工夫している現状が明らかになった．小学生がまず着用するブラジャーは従来スポーツブラが主流であるが，上記の衣生活行動特性から考えると，快適な衣生活を過ごすには改良が必要である．すなわち，スポーツブラ着用の前段階として，キャミソール型ブラ下着の普及開発が望まれる．ブラに続けてウエスト部を覆うニット肌着をつければ肌の露出も減り，ブラジャー着用が他人に気付かれにくく着装もシンプルで快適となる．恥ずかしさや不安を抱いている高学年女子の心理を十分理解した上で，子供服を設計することが望まれ，教育場面においても充分な配慮が必要といえる．

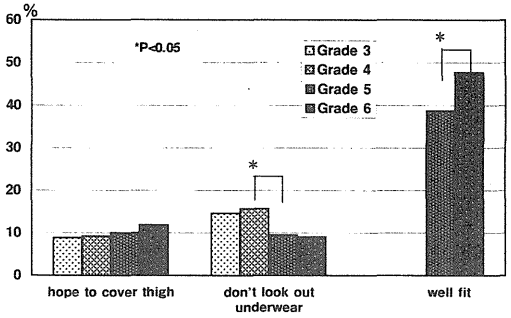


Fig. 7 Factors in deciding skirt length

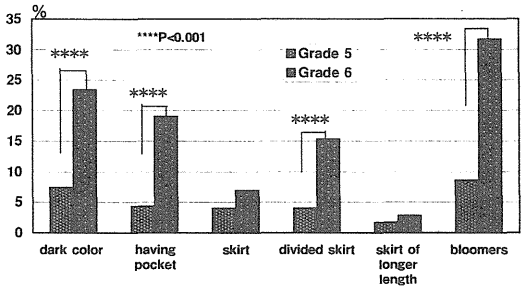


Fig. 8 Clothing during menstruation

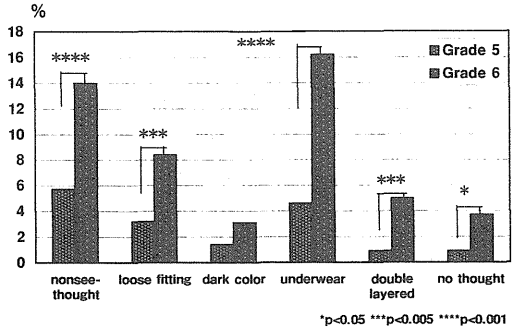


Fig. 9 Clothing wom with bra

3−4 衣生活への関心

衣生活への関心をみるため，12項目の質問を試みた．なお，回答肢の，いつも，かなり，たまにに“1”を，しないに“0”を与えて評定尺度化し検討を行っている．比率が10%前後を占める「人の注意をひくような洋服をえらびますか」，20%前後の「目立つ色の洋服をえらびたいですか」，約40%の「友達と同じ様なかっこうがしたいと思いますか」では，学年間に有意差がみられなかった．そこでここではその他9項目について回答率を比較検討した．ファッションへの関心では，「服の色の組み合わせ」に，3年生では78%，4年生では82%，5年生では86%，6年生では93.5%が関心をよせており，5年・6年生間で0.1%以下の危険率で有意差が認められた．また，「友達とファッションの話しをよくする」人が，3年生では43%，4年生では51%，5年生では65%，6年生では79%おり，3年・4年生間で0.5%以下，4年・5年生間，5年・6年生間で0.1%以下の危険率で有意差が認められた．「ブランドものの服を着たい」という願望は，3年生では42.4%，4年生では52%，5年生では53%，6年生では64.9%が持ち，3年・4年生間で5%以下，5年・6年生間で0.5%以下の危険率で有意差が認めれられた．高学年になると，「友達の服装に関心を持つ」人は，3年生では27%であったのに6年生では53%に増加し，5年・6年生間で0.1%以下の危険率で有意差が認めれられた．また「テレビタレントのようなかっこうがしたい」と思う人が，3年生では26%，4年・5年生では30%，6年生では38%おり，情報化社会を反映している．5年・6年生間で0.5%以下の危険率で有意差が認められた．「自分の体つきに関心をもつ」人は，3年生では67.5%，4年生では70.2%，5年生では67.8%，6年生では75.7%と増加し，5年・6年生間で5%以下の危険率で有意差が認められた．いずれの学年も70%前後と高い比率で自己の体つきを意識していることが明らかになった．

被服衛生学的配慮では，「衣生活の気温への配慮」を，3年生では78%，4年生では82%，5年生では82%，6年生では88%が行い，5年生・6年生間では0.5%以下の危険率で有意差が認められた．「汗をかいた体操着はその日のうちに家にもちかえる」人が3年生では26%を占めているが，4年生では28%，5年生では38%，6年生では46%と，学年が進むにつれて，配慮がなされるようになってきている．5年・6年生間で0.5以下の危険率で有意差が認められた．また，「服の肌触り」は，3年・4年・5年生で40%前後の人が，また，6年生なると，55%が気にするようになる．5年・6年生間で0.5%以下の危険率で有意差が認められた．

3−5 よく着るアイテムと好み

1)着用形態

上衣についてみると，いずれの学年でもトレーナーを70%前後の人が着用し，ブラウス，Tシャツ，ポロシャツを約20%前後の人が着用していた．下衣についてみると，スカートとキュロットスカートの着用者がいずれの学年でも30%前後いた．

2)学校によくはいていくスカート

フレアースカートを，3年生では48.7%，4年生では51%がはいているが，高学年になると，動きやすいキュロットスカートが好まれ，5年生で49.3%，6年生で56.1%と，利用率が高まる．4年・5年生間で1%以下の危険率で有意差が認められた．子供服の代表的なアイテムであるジャンパースカートは，3年生・4年生で4%，5年生で2%，6年生で1%と今回の調査ではまったくといってよいほど利用されていない．

3)好きなスカートと嫌いなスカート

いずれの学年でも，フレアースカートとキュロットスカートを好み，タイトスカートとジャンパースカートは好まれていない．この結果は，学校によくはいていくスカートの結果とも一致した．

4)好きなブランドの有無

小学生では具体的に衣服のブランド名を回答するのは不可能と考えられるので，ここでは，毎日使用するソックスと靴のブランド(メーカー品)について質問した．ソックスに関しては，高学年になる程，ELLEやポロラルフローレンなどの好きなブランドを持つようになることが

分かった．3年生では9%，4年生では15.5%，5年生では22%，6年生では35.5%と増加し，3年・4年生間，4年・5年生間で5%，5年・6年生間で0.1%以下の危険率で有意差が認められた．一方，靴のブランドに対する関心はソックスほど強くないが，3年では8%，4年では14.1%，5年では17.4%，6年では25.3%と学年が進むにつれ，リーボックやプーマなどの好きなブランドを持つ人が増加し，3年・4年生間，4年・5年生間で5%以下の危険率で有意差が認められた．

## 4．まとめ

小学校3～6年生女子1,311名を対象に，子供服設計及び子供の衣環境整備を目的として，質問紙調査を行い衣生活行動について検討した．

1)小学生が通学服を選択し着装する衣生活行動は，3年生では70%程度，5年生では80%，6年生では90%以上が達成し，色の調和を考えて服を組み合わせていた．

2)3年生では男女仲良く着替えをしていたが，学年が進むにつれ自分の体を他人に見られないよう配慮するようになる．体育のある日には更衣のことを考えて，家からかぶり式上衣を40%が着用してくる．またブルマーを家からはいてくる人の比率が高学年で高まる．

3)5・6年生になると大腿部がみえるのを避けミニスカートや体育でのブルマー着用を好まなくなる．体操着としてのブルマーに高学年女子は抵抗感を抱いていることが明らかになった．

4)高学年女子は生理時にブルマーを着用し，濃い色の服を着装し万一に備える衣生活行動を示す．生理用ナプキンを目立たないようポケットに入れて持ち運ぶため，高学年用子供服でもポケットをつけることを原則としたい．

5)ブラジャー着用時はそれが目立たないような衣生活行動を起こし重ね着などの工夫がみられたことから，キャミソール型ブラ下着の普及・開発が望まれる．

6)高学年になると友達とファッションの話しをしたり，ブランド物に関心を示す．また，衛生面の配慮も進み，衣服の管理を行うようになることから，豊かな大人の衣生活の基礎として，小学生以降の適切な衣生活教育が望まれる．

7)小学生女子は二次性徴の発現に伴い，不安を抱きながらそれらに配慮して衣生活行動をしている様子がわかった．教育現場やメーカー側がこれらの心身の発達を十分理解し，教育環境の整備や衣服設計を行う必要がある．

アンケート調査にご理解とご協力をいただきました小学校の関係諸氏に深謝致します．また，調査にご協力いただいた小学生の皆様にお礼を申し上げます．

### 引用文献

1)布施谷節子：家政誌，**42**，545～550(1991)
2)岡田宣子：家政誌，**47**，701～710(1996)
3)大塚美智子：繊消誌，**36**，341～347(1995)
4)布施谷節子：家政誌，**42**，551～558(1991)
5)鈴木直恵：文化女子大学研究紀要，No. 20，91～99(1989)
6)井出真理他：共立女子大家政学部紀要，No.37，55(1991)
7)柳澤澄子・近藤四郎：着装の科学，光生館，213(1996)
8)文部省大臣官房調査統計企画課：『平成5年度学校保健統計調査報告書』(1994)
9)東京都幼稚園・小・中・高等学校性教育研究会：1999年調査「児童・生徒の性」，8(1999)
10)佐野史子他：千葉大学教育学部研究紀要　自然科学編，45，165～175(1997)
11)鈴木直恵：衣生活，**38**，15～22(1995)
12)日本規格協会：日本人の体格調査報告書－既製衣料の寸法基準作成のための(1978-1981)－，通産省148(1984)